

ワークショップ3 「免疫チェックポイント阻害薬時代の消化管診断と治療」
Diagnostic and therapeutic strategies for gastrointestinal diseases in the era
of cancer immunotherapy

司会 伊東文生（聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科）
馬場英司（九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座）

進行悪性腫瘍の薬物治療は、抗 CTLA-4 抗体、抗 PD-1 抗体、そして抗 PD-L1 抗体と次々に登場した免疫チェックポイント阻害剤により大きく変化しました。胃癌では抗 PD-1 抗体治療が生存期間を延長し、他の消化管腫瘍に対する臨床研究も進行中です。一方で治療に伴う免疫関連有害事象としての消化器毒性などは的確な診断と早期対応が求められます。免疫チェックポイント阻害薬治療における消化管診断と治療効果について最新の研究成果を元に議論したいと思います。